

# 平成24年度大学地域連携事業報告

平成25年3月31日

## 1. 担当は以下の通り

主担当校 滋賀県立大学

副担当校 龍谷大学、長浜バイオ大学

## 2. 委員会活動

○第1回（平成24年5月31日）

- ・大学地域連携課題解決支援事業について
- ・地域ブランドネットワーク研究会事業について

▽キックオフ・プレゼンテーション（平成24年6月9日）

○第2回（平成24年7月19日）

- ・大学地域交流フェスタ事業について
- ・大学地域連携ネットワーク運営事業について

○第3回（平成24年10月12日）

- ・環びわ湖大学地域交流フェスタ2012について

○第4回（平成24年11月22日）

- ・環びわ湖大学地域交流フェスタ2012について

○第5回（平成25年2月4日）

- ・平成24年度の事業まとめについて
- ・平成25年度事業計画について

## 3. 大学地域連携課題解決支援事業について

- ・別紙報告書『大学地域連携課題解決支援事業2012報告書』参照

## 4. 「環びわ湖大学地域交流フェスタ2012」の開催について

- ・別紙報告書『環びわ湖大学地域交流フェスタ2012結果報告書』参照

## 5. 大学地域連携ネットワーク事業について

- ・別紙報告書『大学地域連携課題解決支援事業2012報告書14p』参照

## 6. 地域ブランドネットワーク研究会事業について

- ・別紙報告書『平成24年度現場で役立つブランドづくり研究会報告書』参照

# 平成24年度学生支援事業報告

平成25年3月31日

## 1. 担当は以下の通り

主担当 滋賀医科大学

副担当 立命館大学、成安造形大学

参画大学・短大 びわこ成蹊スポーツ大学、聖泉大学、滋賀文教短期大学

## 2. 平成24年度学生支援事業（継続事業）について

### 【研修概要】

本年度学生支援事業では、「絆－琵琶環人(びわんちゅ)がつなぐま～るい環－」をスローガンに、平成24年9月29日（土）～30日（日）に県内13大学の学生70名（内、留学生19名）と教職員16名の合計86名が参加し、研修・交流活動を実施した。

1日目は沖島で、清掃ボランティア・地引網体験・植樹を行い、西福寺では、沖島の歴史について住職から講話をいただき、所蔵美術品等を拝観。地引網体験では、漁業組合の方の協力により全員で昔ながらの漁業を体験した。獲れた魚のほとんどが外来種で、これらが琵琶湖の生態系に及ぼす影響について学んだ。さらに、地元の方々の協力により、金木犀とサザンカを小学校の校庭に植えた。

1日目の夜には、学生交流企画として1日目の総括と、担当学生による滋賀県に関するクイズ等で交流を深めた。

2日目の朝は、全員参加により琵琶湖検定をクイズ形式で実施し、滋賀の魅力についての理解を深めた。その後、「新海浜清掃・フットサル・ガラス細工体験（長浜市）」と「近江八幡散策と水茎焼体験（近江八幡市）」の2コースに分かれて活動する計画であったが、台風接近のため、全員が水茎焼体験に参加することに変更し、研修日程を繰り上げて終了した。

### 【参加学生のアンケート結果】

参加学生の80%が、1泊2日の研修を通して滋賀への関心は高まったと回答。以下は自由記述の抜粋である。

（滋賀県に関して）

- ・ 普段滋賀県の人と交流することがないので、色々なことが学べてもっと滋賀について知りたいと思った。（女：1回生）
- ・ 琵琶湖検定の問題をはじめて解き、滋賀のことについて自分は知らないと感じた。（男：3回生）
- ・ 滋賀名産のもの（鮎寿司やびわ鱒）が食べられて良かったし、琵琶湖にこんなにたくさん食べられる魚がいることを初めて知った。（男：3回生）

（沖島に関して）

- ・ 沖島で感じた雰囲気や感動を伝えていきたいと思う。まだまだ知らないことがいっぱいだが、今回の研修を通じて琵琶湖を身近に感じた。（女：3回生）

- ・地引網でブルーギルやブラックバスが琵琶湖にあればと知り、とても驚いた。(女：1回生)
  - ・沖島の人みんなが温かくてとても歓迎してくれたことが、島の絆を感じさせてくれた。(女：1回生)
- (その他)
- ・滋賀県の事だけでなく、他の人や他の国への関心も深まった。(男：1回生)
  - ・他大学の人と交流して、新しい友達が出来てよかった。(女：1回生)
  - ・新しい発見、新しい交友関係が生まれて、参加してとても満足のいく研修だった。こういった活動をやっていることをもっと多くの人に知ってもらいたい。(女：3回生)

### 【研修の成果報告】

学生支援事業の3つの目的【①地域の人々と交流を通して地域を理解する。②ボランティア活動を通じて社会について学ぶ。③学生が大学の垣根を越えて交流・学習する。】が、今回の1泊2日研修を通して、それぞれどのように達成できたかをテーマにして発表グループを編成し、12月15日に開催された環びわ湖・大学地域交流フェスタ2012において、プレゼンテーションとパネル展示により報告を行った。

①では、沖島での活動や交流を通して沖島という地域に対する理解が進んだことや、同じ滋賀県であっても、自分達の常識を沖島にあてはめることはよくない。違いを受け入れてこそ協同して物事に取り組めるといった報告があった。

②では、高齢化が進む沖島では若い力による継続したボランティア活動が必要であることや、未来の沖島を担う子供たちも一緒に楽しめる活動にしていくことの重要性について報告があった。また、沖島の人が日ごろ当たり前すぎて気づかない沖島の魅力（美しい自然と資源、治安のよさ、元気な高齢者コミュニティなど）について、発信していく必要があると報告された。

③では、地引網体験や交流会、琵琶湖検定等の企画を通して学生同士が大学の垣根を越えて交流・学習できたこと。単科大学の学生は、総合大学や異なる学部の学生と出会い、刺激を受けたことが報告された。

なお、今年の事業は、留学生との交流も含んだ企画として実施したので、19名（8カ国）の留学生が参加してくれたことから、留学生も報告会に参加し、プレゼンテーションを行った。発表を担当した留学生からは、滋賀県について学ぶことができ、新しい友達も増え、とても充実した2日間だったと報告があった。

### 3. 外国人留学生派遣事業「甲賀市留学生観光サポーター（地域連携支援）」について

滋賀県甲賀市の「こうかブランドマネジメント会議」と連携し、外国人旅行客の獲得や集客をめざす企画の一環で「甲賀市留学生観光サポーター」として、県内3大学（滋賀県立大学、龍谷大学、立命館大学）の5名が活動している。平成24年11月10日（土）に開催された「甲賀市伊賀市観光ビジネスメッセ」で「体験レポートを発表した。なお、平成25年度も継続して取り組むこととなり、3名の留学生が継続できなくなったため新たに3名の留学生を推薦した。平成25年度は3大学（滋賀県立大学、龍谷大学、立命館大学）の5名が活動する。

以上

# 平成24年度高大連携事業報告

平成25年3月31日

## 1. 担当は以下の通り

主担当校 立命館大学

副担当校 滋賀大学

## 2. 滋賀県高等学校進路指導研究会との連携による講演会の実施について

滋賀県高等学校進路指導研究会と連携して、高大連携事業委員会の事業として、下記の講演会を実施した。

### ① 10月12日（金）滋賀県高等学校進路指導研究会 第2回進学部会

演題：入学前教育と入学後の学生の伸びについて

講師：龍谷大学 政策学部 深尾 昌峰 准教授

参加：50名

## 3. 「学びへの誘い」の実施について

高校低学年の生徒を対象にして、大学での「学び」を大きな学問分野のくくりにおいて触れる機会を提供し、よりよい進路選択と大学入学後の「学び」を知ることが目的として、「学びへの誘い」を実施した。

### (1) 実施日

11月11日（日）

### (2) 実施内容

①模擬講義

②大学個別相談会

③資料コーナー

### (3) 実施会場

#### 【滋賀大学 彦根キャンパス】

参加大学：滋賀大学、滋賀文教短期大学、聖泉大学、長浜バイオ大学、びわこ学院大学・短期大学部

#### 【立命館大学 びわこ・くさつキャンパス】

参加大学：滋賀医科大学、滋賀短期大学、龍谷大学、成安造形大学、びわこ成蹊スポーツ大学、立命館大学

### (4) 実施案内方法・参加者集約

①滋賀県下高校62校（公立・私立・定時制）の1・2年生の全員、約28,000人に高校を通じてリーフレットを送付した。

②高校ごとに参加者集約を行い、事務局で集約を行った。

参加希望者 15高校52名

当日参加者 14 高校 44 名（教員、保護者含む）

(5) 実施結果

①模擬講義

今年度新規の企画で、また各大学での出張講義、オープンキャンパスなどが実施される中、各大学の講義担当の先生方には熱心に講義をしていただき、受講した生徒も一様に満足度が高い結果となった。なお、県立大学は模擬講義を実施せず資料参加のみであった。

なお、成安造形大学、龍谷大学は申込者が 1 名、びわこ成蹊スポーツ大学は申込者 0 のため模擬講義の実施を取り止めた。

②大学個別相談

大学ごとに個別相談コーナーを設置した。

③資料コーナー

両会場ともに、参加全大学の資料を設置した。

各大学においては、大学案内や入学願書が準備され、希望する生徒が持ち帰った。

(6) 収支

項目	金額
チラシデザイン・印刷	257,500
チラシ送付	36,526
傷害保険 保険料	2,100
看板制作一式	68,838
講師謝金	180,000
滋賀大学臨時バス	24,400
雑費(振り込み手数料等)	11,300
計	548,914

(以上)

## 平成 24 (2012) 年度就職支援事業委員会事業報告

平成 25 年 3 月 31 日

### 1. 担当校は以下の通り

主担当校：龍谷大学、副担当校：滋賀県立大学

担当校：聖泉大学、びわこ学院大学、滋賀文教短期大学、長浜バイオ大学

### 2. 合同企業説明会について

滋賀県内の企業・事業所の優位性を広く学生に認知してもらい、より多くのマッチングを実現することを目的として合同企業説明会を、湖南地区（大津市）1 会場、湖北地区（長浜市、東近江市）2 会場にて実施し、参加学生 620 名の内、70 名の内定（マッチング）に繋がった。

#### ① 湖南地区

- ・開催日時：2012 年 9 月 3 日（月）
- ・開催場所：琵琶湖ホテル
- ・参加企業：46 社
- ・主 催：大津市
- ・共 催：環びわ湖大学・地域コンソーシアム、ハローワーク大津
- ・参加者：270 名（2011 年度参加者数 165 名）
- ・内定者：24 名
- ・内定率：8.8%

#### ② 湖東地区

- ・開催日時：2012 年 10 月 3 日（水）
- ・開催場所：八日市ロイヤルホテル
- ・主 催：東近江商工会、環びわ湖大学・地域コンソーシアム、ハローワーク東近江
- ・参加企業：20 社
- ・参加者：118 名（新卒 95 名、既卒 23 名。2011 年度は共催・後援事業の実績なし）
- ・内定者：14 名
- ・内定率：11.8%

#### ③ 湖北地区

- ・開催日時：2012 年 11 月 2 日（金）
- ・開催場所：長浜バイオ大学
- ・主 催：長浜市、米原市（湖北就活ナビ実行委員会）
- ・後 援：環びわ湖大学・地域コンソーシアム、ハローワーク長浜、湖北地域雇用対策協議会
- ・参加企業：50 社
- ・参加者：232 名（2011 年度参加者数 308 名）
- ・内定者：32 名
- ・内定率：13.8%

### 3. 滋賀県企業人事担当者と大学就職担当者ととの情報交換会

年々変化する昨今の就職環境を踏まえ、滋賀県内の企業人事担当者と大学就職担当者が、学生のミスマッチを減らし、より多くの県内企業との最適なマッチングに繋がられることを目的とした情報・意見交換会を2回開催した。

#### ① 環びわ湖大学・地域コンソーシアム「主催事業」

- ・担当校：(主担当校) びわこ学院大学、(副担当校) 滋賀文教短期大学
- ・主 催：滋賀経済産業協会、環びわ湖大学・地域コンソーシアム
- ・開催日：2013年3月14日(木) 15:00～19:00
- ・開催場所：クサツエストピアホテル
- ・参加大学：9大学(11名)
- ・参加企業：14社(15名)

#### ② 環びわ湖大学・地域コンソーシアム「後援事業」

- ・担当校：(主担当校) びわこ学院大学、(副担当校) 滋賀文教短期大学
- ・主 催：滋賀県中小企業団体中央会
- ・後 援：環びわ湖大学・地域コンソーシアム
- ・開催日：2012年10月30日(火) 13時20分～16時00分
- ・開催場所：クサツエストピアホテル
- ・参加大学：5大学(5名)
- ・参加企業：23社(25名)

### 4. 大学就職担当者間の情報交換会・研究会の実施

環びわ湖大学・地域コンソーシアム加盟13大学の就職担当者を対象に、外部講師を招いての研究会(講演会)に引き続き、各大学が抱える就職状況について情報交換を行った。

- ・担当校：(主担当校) 聖泉大学、(副担当校) 龍谷大学
- ・開催時期：2012年9月11日(火) 13:30～17:30
- ・開催場所：環びわ湖大学・地域コンソーシアム事務局会議室
- ・参加大学：10大学(12名)
- ・講演内容：『就職活動に困難をかかえる学生へのキャリア&メンタル支援』  
～モチベーション低下や不安を乗り越えるための支援方法～
- ・講 師：山本 公子(やまもと きみこ)氏  
こころとキャリアのカウンセリングオフィス結(ゆう)代表

### 5. 学生を対象とした就職活動に活かす合同合宿イベントの実施

平成24年度の新規事業として、環びわ湖大学・地域コンソーシアム加盟13大学に在籍する低年次生を中心に早い段階から将来に対するビジョンや働くというイメージを持っていただくこと、そしてそれに向けた学生生活の過ごし方を醸成することを目的として、8月に1泊2日の合同合宿を実施した。アンケート結果から、企業訪問、OBOGとの交流会は、学生にとって大変満足するものであった。

- ・担当校：(主担当校) びわこ学院大学、(副担当校) 龍谷大学
- ・開催時期：2012年8月28日(火) 29日(水) 1泊2日
- ・開催場所：滋賀県希望ヶ丘文化公園 青年の城
- ・参加費：学生1名2,000円
- ・参加大学：8大学(29名)
- ・訪問企業：オプテックス(BtoB企業) 鮎家(BtoC企業)

以上



# 2012 年度単位互換事業報告

2013 年 3 月 31 日

## 1. 担当は以下の通り

主担当校 滋賀大学  
副担当校 滋賀医科大学

## 2. 取り組みの経過について

2011 年 11 月 17 日に単位互換事業委員会及び教務担当者会議合同会議を開催し、2012 年度の単位互換事業の進め方（「ガイドライン」）について協議・決定し、2012 年度の事業を開始した。

2012 年 1 月から、各大学からの提供科目の集約、シラバス原稿の集約を行い、3 月 28 日に環びわ湖大学コンソーシアム単位互換制度について（2012 年度）を HP に掲載した。また、募集ガイドの発行に変えて募集チラシ、ポスターを作成し、各大学に配布した。4 月上旬から、各大学で募集ガイダンスと出願受付を行い、4 月末に科目提供大学で受講者を決定し、各大学で単位互換科目の授業が行われた。

7 月 12 日に単位互換事業委員会及び教務担当者会議の合同会議を開催し、2012 年度の単位互換事業の状況報告を行うとともに、本年度の受講者数が減少している要因について各大学に報告を求め次年度への改善を確認した。また、昨年度に受講生に対して行ったアンケート結果を考慮し、次年度の受講者数の増加対策として、滋賀らしい科目であり、なおかつ集中講義を可能な限り提供すること、e-ラーニングによる科目提供について検討を継続していくこと、可能な大学間での遠隔講義の実施の可能性について再検討を行うことなどが確認された。また、6 月に定員に余裕のある夏期集中科目や後期開講科目に対する追加募集の実施、さらに 9 月にも後期開講科目の再追加募集を実施した。

11 月 15 日の合同会議において、次年度の開講準備に向け受講者増方策を再確認した。なお、遠隔講義の再検討については、設備保有大学が検討結果を持ち寄った結果、諸事情により現段階では難しいとの確認となった。

## 3. 単位互換事業の内容について

### (1) 提供科目

2012 年度の提供科目数は 64 科目（同一科目を複数の曜日時限に開講する場合に、それぞれを 1 科目として数えたもの）で、2011 年度と比べて 4 科目減少した。集中講義は 5 科目で前年度より 2 科目減少したが、滋賀らしい科目は 13 科目で前年度より 4 科目増加した。

なお、実質的な科目数（学生が選択できる科目数）は、2012 年度は 60 科目、2011 年度は 65 科目であり、5 科目減少である。（提供科目一覧 別紙(1)参照）

### (2) 受講科目及び受講者数

提供科目のうち、他大学生が出願し受講が許可された科目数は 29 科目であり、昨年より 3 科目

減少した。受講率（＝受講科目数÷提供科目数）は45%で、昨年度（47%）から2%減少した。また、受講者が0名の大学が1校で昨年度（3校）より2校減少した。

2012年度の受講者数は10月1日現在で122件（実数95名）であり、昨年度からは23件（実数で21名）減少した。受講者全体の70%は立命館大学の受講者が占めている。集中期間に開講された科目に比較的多くの出願があり、なかでも聖泉大学提供の「滋賀論」（前期集中）は39名の受講者を集めた。

なお、本年度も受講者数の増加方策として6月の追加募集、及び9月の再追加募集により、37件（実数で25名）の出願があった。

（提供科目数・受講科目数の推移、受講科目一覧、受講者数 別紙(2)(3)及び(4)参照）

### (3) 大学別の送出件数・受入件数

大学別に「送出件数」「受入件数」を見ると、大学によっては「送出超過」「受入超過」の傾向が顕著になりつつある。各大学で送出と受入が均衡しながら全体として増加する状態が望ましいが、「送出のみ」「受入のみ」となりつつある大学もある。短期大学は、2年間で卒業する履修カリキュラムの制約から、出願が0件もしくは数件の状況が続いている。

2007年度は11大学からの送出しがあり、2008年度は9大学、2009年度は8大学と一時低迷し、2010年度は10大学と若干回復したが、2011年度は7大学、2012年度も7大学と2011年度に低下したまま横ばいとなっている。

### (4) 成績取得状況

2012年度の成績取得状況をみると、122件のうち合格が66%（80件）であり、2011年度より合格者の比率が高い。2011年度は145件のうち55%（80件）合格となっている。また、本年度は不合格者42件のうち、受講放棄・試験未受験と思われるもの（成績評価が「0」または「評価なし」）が34件である。昨年度は不合格者65件のうち、受講放棄・試験未受験と思われるものが58件である。状況は改善しているが、事務を担う科目提供大学の負担となるため、継続して働きかけが必要である。

なお、学期ごとの成績取得状況は、前期（春学期）科目77件のうち、合格が68%（52件）で、後期（秋学期）科目45件のうち、合格が62%（28件）である。

別紙

(1) 提供科目一覧

科目提供大学	科目番号	科目名	回生	単位互換定員	開講期間	曜日	時限	単位
滋賀大学	01	日本の歴史	1以上	10名程度	春学期	火	3	2
	02	日本の歴史(e-learning)	1以上	10名程度	秋学期	月	4	2
	03	情報学への招待	1以上	10名程度	春学期	水	2	2
	04	近江の歴史	1以上	10名程度	春学期(集中)			2
	05	国際化と東アジアを考える	1以上	10名程度	春学期	月	5	2
	06	近江のくらしと文化(彦根・湖東学)	1以上	10名程度	秋学期(集中)			2
	07	滋賀大学で環境を学ぶ	1以上	10名程度	秋学期	木	1	2
滋賀医科大学	08	医学概論I	1以上	15名	前期	木	2	2
	09	医学概論II	1以上	15名	後期	木	2	2
	10	臨床心理学	1以上	不問	前期	火	5	2
	11	臨床コミュニケーション学	1以上	30名	前期	金	3	2
	12	地域論	1以上	不問	後期	木	4	2
	13	睡眠学概論	1以上	10名	前期	金	1	2
滋賀県立大学	14	環境マネジメント総論(人間文化学部・人間看護学部)※1	指定なし	10名	前期	月	1	2
	15	環境マネジメント総論(環境科学部・工学部)※1	指定なし	10名	前期	月	2	2
滋賀短期大学	16	環境を考える	1以上	若干名	前期	木	1	2
	17	メディアと教育	1以上	若干名	後期	火	1	2
	18	子どもの心理学 I ※2	1以上	若干名	前期	火	2	2
	19					火	3	
	20	子どもの保健 I b ※2	1以上	若干名	後期	金	1	2
	21					金	2	
	22	秘書学概論※2	1以上	若干名	前期	水	1	2
	23					水	4	
滋賀文教短期大学	24	秘書実務 I	1以上	若干名	前期	金	1	1
	25	秘書実務 II	1以上	若干名	後期	金	4	1
	26	書道 I	1以上	若干名	春学期	火	3	2
	27	書道 II	1以上	若干名	秋学期	火	3	2
	28	地域文化概説	1以上	若干名	春学期	火	2	2
成安造形大学	29	美術理論	1以上	10名程度	前期	火	1	2
	30	文化史A	1以上	10名程度	前期	木	2	2
	31	文化史B	1以上	10名程度	後期	木	2	2
	32	近江学B	1以上	10名程度	通年	土	2	2
聖泉大学	33	滋賀論	1以上	若干名	前期集中			2
長浜バイオ大学	34	基礎微生物学	1	10名	前期	月	5	2
	35	基礎微生物学	1	5名	前期	月	2	2
	36	細胞生物学 I	1	5名	後期	金	2	2
	37	遺伝子工学	2	5名	後期	水	5	2
びわこ学院大学	38	東近江の地域学		10名程度	後期	火	1	2
	39	滋賀の環境		10名程度	後期	火	1	2
	40	ビジネスコミュニケーション(※短大部科目)		不問	後期	木	1	2
	41	人間福祉概論		不問	後期	火	2	2
	42	特別支援保育論	2以上	10名程度	後期	火	4	2
	43	特別支援教育論	2以上	10名程度	後期	火	4	2
びわこ成蹊スポーツ大学	44	地域歴史学		10名程度	後期	木	3	2
	45	衛生・公衆衛生学	1	若干名	前期	火	1	2
	46	障害者スポーツ概論	1	若干名	前期	火	1	2
	47	スポーツバイオメカニクス	1	若干名	後期	火	2	2
龍谷大学	48	社会人類学	2以上	10名	後期	月	2	2
	49	教養教育科目特別講義A「里山学入門」	指定なし	10名	前期	月	3	2
	50	環境と人間A	2以上	20名	前期	月	4	2
	51	社会保険論	3以上	5名	前期	火	4	2
	52	広報論	2以上	10名	後期	水	2	2
	53	生活の中の数学	指定なし	15名	前期	水	3	2
	54	びわ湖・滋賀学	2以上	不問	後期	木	1	2
	55	人間の心理と発達	2以上	不問	前期	木	3	2
立命館大学	56	ODA・国際援助論 E	3以上	10名程度	夏期集中			2
	57	経営と女性 B	1以上	10名程度	夏期集中			2
	58	キャリア開発 B	1以上	20名程度	前期	火	1	2
	59	心理学入門 TA	1以上	20名程度	前期	水	2	2
	60	現代社会と法 TA	1以上	10名程度	後期	木	4	2
	61	現代の国際関係と日本 C	1以上	10名程度	前期	火	5	2
	62	生命科学と倫理 MA	1以上	10名程度	前期	月	5	2
	63	スポーツと現代社会 V	1以上	10名程度	後期	水	4	2
	64	スポーツ史 V	1以上	10名程度	後期	水	4	2

(2) 提供科目数・受講科目数の推移 <自大学への出願を除く>

科目提供大学	滋賀大学	滋賀医科大学	滋賀県立大学	滋賀短期大学	滋賀文教短期大学	成安造形大学	聖泉大学	長浜バイオ大学	びわこ学院大学	びわこ成蹊スポーツ大学	龍谷大学	立命館大学	全大学計
2006年度	提供科目数 4 受講科目数 2 受講率 50%	5 3 60%	3 3 100%	7 5 71%	4 1 25%	11 2 18%	4 1 25%	3 1 33%	2 0 0%	2 1 50%	8 8 100%	9 5 56%	62 32 52%
2007年度	提供科目数 4 受講科目数 4 受講率 100%	5 3 60%	5 3 60%	8 6 75%	6 4 67%	7 5 71%	3 1 33%	3 0 0%	2 2 100%	2 2 100%	8 6 75%	21 11 52%	74 47 64%
2008年度	提供科目数 3 受講科目数 2 受講率 67%	5 5 100%	3 1 33%	9 7 78%	4 2 50%	7 4 57%	3 2 67%	3 0 0%	2 2 100%	0 0 0%	7 8 100%	12 5 42%	66 38 58%
2009年度	提供科目数 5 受講科目数 4 受講率 80%	6 4 67%	3 1 33%	18 7 39%	6 3 50%	8 1 13%	4 1 25%	4 0 0%	3 2 67%	2 0 0%	9 6 67%	9 4 44%	77 33 43%
2010年度	提供科目数 5 受講科目数 4 受講率 80%	6 4 67%	2 0 0%	9 4 44%	3 2 67%	4 2 50%	5 2 40%	4 0 0%	3 1 33%	4 1 25%	8 6 75%	11 4 36%	64 30 47%
2011年度	提供科目数 8 受講科目数 7 受講率 88%	6 3 50%	2 2 100%	11 3 27%	3 1 33%	4 0 0%	2 1 50%	4 0 0%	7 4 57%	1 0 0%	8 6 75%	12 5 42%	68 32 47%
2012年度	提供科目数 7 受講科目数 4 受講率 57%	6 4 67%	2 2 100%	10 1 10%	3 2 67%	4 1 25%	1 1 100%	4 1 25%	7 5 71%	3 0 0%	8 6 75%	9 2 22%	64 29 45%

(3) 受講科目一覧

科目番号	科目提供大学名	科目名	受講者数
2	滋賀大学	日本の歴史 (e-learning)	5
04	滋賀大学	近江の歴史	13
05	滋賀大学	国際化と東アジアを考える	1
06	滋賀大学	近江のくらしと文化(彦根・湖東学)	10
08	滋賀医科大学	医学概論Ⅰ	4
09	滋賀医科大学	医学概論Ⅱ	2
10	滋賀医科大学	臨床心理学	1
13	滋賀医科大学	睡眠学概論	1
14	滋賀県立大学	環境マネジメント総論(人間文化学部・人間)	1
15	滋賀県立大学	環境マネジメント総論[環境科学部・工学部]	1
16	滋賀短期大学	環境を考える	2
27	滋賀文教短期大学	書道Ⅱ	2
28	滋賀文教短期大学	地域文化概説	1
32	成安造形大学	近江学B	3
33	聖泉大学	滋賀論	39
37	長浜バイオ大学	遺伝子工学	1
38	びわこ学院大学	東近江の地域学	1
39	びわこ学院大学	滋賀の環境	1
40	びわこ学院大学	ビジネスコミュニケーション	1
41	びわこ学院大学	人間福祉概論	2
43	びわこ学院大学	地域歴史学	1
48	龍谷大学	社会人類学	3
49	龍谷大学	教養教育科目特別講義A「里山学入門」	2
52	龍谷大学	広報論	9
53	龍谷大学	生活の中の数学	1
54	龍谷大学	びわ湖・滋賀学	4
55	龍谷大学	人間の心理と発達	4
56	立命館大学	ODA・国際援助論 E	2
57	立命館大学	経営と女性B	4
総計			122

#### (4) 受講者数

	学生所属大学							
	滋賀大学	滋賀医科大学	滋賀県立大学	長浜バイオ大学	びわこ学院大学	龍谷大学	立命館大学	総計
科目提供大学	滋賀大学			4	1	1	23	29
	滋賀医科大学	1				1	6	8
	滋賀県立大学	2						2
	滋賀短期大学						2	2
	滋賀文教短期大学	1			2			3
	成安造形大学	2					1	3
	長浜バイオ大学	1						1
	聖泉大学	2		3			34	39
	びわこ学院大学	2			4			6
	龍谷大学	1		1	1		20	23
	立命館大学	3	2		1			6
	総計	15	2	4	12	1	2	86

## II 2013 年度単位互換事業

環びわ湖大学・地域コンソーシアム改革案に基づき、2013 年度の開講に向けて、引き続き参加学生の増加を図るための方策や滋賀らしい科目の提供を行う必要がある。

- (1) 受講者数の増加方策として、各大学が夏期集中や土曜開講科目の充実、サテライト教室（大津駅前など）での開講を計画する。また、事務局および各大学が、学生に積極的に広報を行う。
- (2) 滋賀らしい科目を提供するため、各大学が近江学やびわ湖学などの滋賀らしさのある科目を開発・提供する。
- (3) e-learning による科目提供について、さらに検討を加える。

2013 年度の開講・出願スケジュールは、別添のとおりである。

## 《 2013 年度開講・出願スケジュール 》

月日	教務日程	備考
1月28日(月)	【開講】2013年度提供科目報告期限	所定フォーマット
3月6日(水)	【開講】2013年度開講科目シラバス最終原稿締切 【厳守】	
3月中旬	【開講】2013年度「募集ガイド」HP掲載	
4月上旬	【出願受付】募集ガイダンス・出願受付	
～4月12日(金)	【出願受付】出願受付 <各大学> ※許可発表以前に開講される科目は、仮受講を認める。	各大学の状況に応じて設定
4月16日(火) 17:00【厳守】	【出願受付】「出願票」提出期限 <各大学→科目提供大学>	所定フォーマット
4月17日(水) ～4月23日(火)	【出願受付】出願者の選考 <科目提供大学>	
4月24日(水) 17:00【厳守】	【出願受付】選考結果連絡 <科目提供大学→学生所属大学および事務局大学>	所定フォーマット
4月25日(木) ～4月26日(金)	【出願受付】許可発表 ※各大学の状況に応じてこの日までに設定。	
随時	【出願受付】受講登録	所属大学で随時
4月23日(火) ～5月9日(木)	【追加募集】追加募集対象科目の選考 <科目提供大学>	
5月10日(金) 17:00【厳守】	【追加募集】追加募集対象科目の報告 <各大学→事務局大学> ※夏期集中・後期科目を対象とする。	所定フォーマット
5月15日(水)	【追加募集】追加募集対象科目一覧の送付 <事務局大学→各大学>	
5月27日(月) ～6月10日(月)	【追加募集】追加募集受付 <各大学>	各大学の状況に応じて設定
6月13日(木) 17:00【厳守】	【追加募集】追加募集「出願票」提出期限 <各大学→科目提供大学>	
6月14日(金) ～21日(金)	【追加募集】追加出願者の選考 <科目提供大学>	所定フォーマット
～6月24日(月) 17:00【厳守】	【追加募集】追加募集選考結果連絡 <科目提供大学→学生所属大学および事務局大学>	所定フォーマット
6月25日(火) ～7月1日(月)	【追加募集】許可発表 ※各大学の状況に応じてこの日までに設定。	
随時	【追加募集】追加募集許可者の受講登録	所属大学で随時
8月19日(月)	【再追加募集】追加募集対象科目の選考 <科目提	

～8月27日(火)	供大学>	
8月28日(水) 17:00【厳守】	【再追加募集】追加募集対象科目の報告 <各大学 →事務局大学> ※後期科目を対象とする。	所定フォーマット
8月30日(金)	【再追加募集】追加募集対象科目一覧の送付 <事務局大学→各大学>	
9月12日(木) ～9月18日(水)	【再追加募集】追加募集受付 <各大学>※許可 発表以前に開講される科目は、仮受講を認める。	各大学の状況に応じて設定
9月20日(金) 17:00【厳守】	【再追加募集】追加募集「出願票」提出期限 <各 大学→科目提供大学>	
9月24日(火) ～9月27日(金)	【再追加募集】追加出願者の選考 <科目提供大学 >	所定フォーマット
～9月30日(月) 17:00【厳守】	【再追加募集】追加募集選考結果連絡 <科目提供 大学→学生所属大学および事務局大学>	所定フォーマット
10月2日(水) ～ 10月11日(金)	【再追加募集】許可発表 ※各大学の状況に応じてこの日までに設定。	
随時	【再追加募集】追加募集許可者の受講登録	所属大学で随時

以上

# 平成24年度広報事業報告

平成25年3月31日

## 1. 担当は以下の通り

当コンソーシアム事務局

## 2. ホームページの管理・運営について

コンソーシアムのホームページを通して、各大学で開催されるイベント等の情報提供を行った。年度内において「お知らせ」記事を28件ホームページ上で掲載した。

情報内容の更新

- ① すべての事業委員会のページを更新した。
- ② 6月1日および3月28日の総会の決議を受けて、定款、役員一覧、役員会議事録、財務状況を更新した。
- ③ 一部の大学について、紹介ページを更新した。
- ④ リンク集に滋賀県中小企業団体中央会（賛助会員）および関係機関として、S-NAVI 滋賀県の中小企業情報サイト、ヤングジョブセンター滋賀、滋賀・びわ湖ブランドネットワークを追加した。

なお、年度内のアクセスは27,619件（昨年度は24,185件）であった。

## 3. 広報資料の作成・配布

コンソーシアムを紹介する資料として、昨年度に作成した広報リーフレット「CAMPUS LIFE IN SHIGA 滋賀でデッカく学ぼう！」（A4×6P）の内容を一部更新し、3万部印刷した。

同リーフレットを、会員の大学・自治体・経済団体・企業、県内の高校（1年生・教職員）に配布するとともに、全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムの会場において配布した。

## 4. 事業委員会と連携した広報活動について

大学地域連携事業（大学地域連携課題解決支援事業、環びわ湖大学地域交流フェスタ、現場で役立つブランドづくりノウハウ研究会成果発表会）、高大連携事業（学びへの誘い）、就職支援事業（合同企業説明会、県内企業訪問バスツアーと就活合宿）、単位互換事業（互換科目の受講案内）について、各事業委員会と連携してホームページ掲載をはじめとした広報を行った。

以上